

平成 26 年度 第 1 回獣医学共用試験委員会 議事録

- 1 日 時 平成 26 年 5 月 31 日 (土) 18:00 ~ 21:30
- 2 場 所 東京大学農学部 農学部 3 号館 105 会議室
- 3 出席者
- | | |
|-------------------|--------------------|
| 酪農学園大学：山下和人教授 | 酪農学園大学：遠藤大二教授 |
| 北海道大学：稲葉 睦教授 | 北里大学：高井伸二教授 |
| 東京大学：尾崎博教授 | 東京大学：杉浦勝明教授 |
| 岐阜大学：北川均教授 | 岐阜大学：杉山 誠教授 |
| 麻布大学：浅井史敏教授 | 鳥取大学 澁谷 泉教授 |
| 日本獣医生命科学大学：新井敏郎教授 | 日本獣医生命科学大学：森田 達志講師 |
| 北里大学客員教授：吉川泰弘先生 | 岩手大学：山岸則夫教授 |
| 北海道大学：伊藤 茂男教授 | |
4. 議題
- 1) 山岸先生の幹事への追加について：承認
- 2) 獣医学共用試験委員会小委員会からの進捗状況の報告
- (1) 共用試験委員会：高井 科研費交付申請書 (別紙 1-1)
- 基盤研究 (A) の平成 26 年度実施計画に関する確認 (別紙 1-2: 内訳表)
- 資料 1-3 1) 成績通知について問い合わせ (麻布大 松井先生から)
- 麻布大のトライアル受験生から点数が知りたいとの要望があった
- 個人宛の成績：大学には成績通知しているので、各大学で対応して頂く
- 大学の平均点、個人の点数
- トライアルでは大学によって受験した学年が異なる
- 医学部はすべて公開、薬学部は可否のみ公開
- トライアルのモチベーションを維持するために点数公開が必要
- トライアル：獣医では各大学の判断で大学平均点と個人の点数/順位あるいは点数分布等を公開して良い (本試験における対応はこれから)
- 2) トライアルに関する機材費用について (帯広畜大 松本先生)
- 共用試験委員会/共用試験機構 (仮) より予算措置があるのか？ 無いと返答。
- (2) 獣医学共用試験機構の設置：尾崎先生、杉浦先生
- 獣医学共用試験機構の規約関連
- 設置場所：緬羊会館 302 号室 (東京都文京区湯島 3 丁目 20-9)
- 家賃 20 万円/月 年間 240 万円 + α
- 専任理事の依頼：理事 2 名 + 事務 1 名 (いずれも非常勤職員として雇用)
- 機構の予算
- 共用試験初年度 (平成 28 年度) の予算：各大学から受験学生数を加味した所定の年会費を徴収
- 寄付金：機構銀行口座で管理するが、それまでは全国協議会事務局で管理
- 平成 27 年度科研費 A の申請を考える
- 機構 (一般社団法人) を 2015 年 4 月に立ち上げる
- 事務所は 2015 年 1 月をめどに仮立ち上げる。そのためには、
- イ) 先にお金が必要 (30 万円程度) 家賃 20 万円、公証人に対する謝礼 7 万円、登記料 数万円
- ロ) 新井財務小委員会委員長に寄付金調達をお願いした (獣医師会 55 支部、大学同窓会、企業など、幅広く依頼することとした) 5 年間位の期限付きとするか、長期的にお願いするか。
- ハ) 寄付金の送付先としては将来的には機構となるが、現時点では公的な組織である、全国協議会 (共用試験委員会・機構設立準備委員会) であり、これについては 9 月全国協議会で決定できるように準備
- ニ) 財務小委員会の会計事務担当部署を、全国協議会事務局である日本獣医生命科学大・教務課・中原優課長にお願いする (新井先生了承)。
- ホ) 機構の設置時期については、平成 27 年 4 月を目標としたいが、16 大学学長の承認 (捺印) が、9 月の総会以降の短期間で可能か否かの議論があり、法人申請の方法論 (全部

資料 1-1

第 101 回全国協議会 平成 26 年 9 月 8 日

が揃わなくても、出来るところから) について、杉浦先生に依頼している司法書士にご確認頂くこととした。

- へ) 新井委員長が中心となり各種団体からの寄付金を募集し、これで事務所を立ち上げ、また銀行口座を開く
- ト) 平成 27 年 4 月以降の参加であっても、会費は遡って徴収すべきであろう。
- 1) 定款：1 枚の紙に獣医系 16 大学学長が押印する (学部長印ではダメ)
医学・薬学の事例について、情報収集することとした。

(3) vetCBT 小委員会：杉山先生 資料 “vetCBT 問題作成・精選進捗状況と今後の予定”

○問題精選の作業進捗状況

到達目標△が入っており、これは保存しておく

科目委員を 3 名から 2 名に減らした

1 グループ 100 題以下とした

科目間での作成問題数の偏りが見られる

科目内・到達目標項目間での問題数の偏りも予想でき、今後、把握する

アンケート調査結果を解析し、次の作業に向けて改善を進める

○平成 26 年度の問題作成・精選予定

問題の偏りを解消するように問題作成を依頼する

この新たな問題と第 2 回目で精選できなかった問題について精選作業を実施する

○トライアル用試験問題の作成について

実際に出題する問題について検討する委員を新たに任用委員会を設置することとなった (遠藤・杉山・杉浦)：本番用の検証を含める

問題セットを作成する際に重複問題を目視で削除する (精選システムの中ではしない)

(4) 共用試験の検証：杉浦先生 資料 “共用試験 CBT 第 1 回トライアルの IRT 処理結果”

○検証システムなど

識別力 (a)：能力の高い学生が正答率が高い、能力の低い学生が高い、平均値 0

a=1.5 は識別力が高い 識別力が低い (マイナス) となるものは不適問題

難易度 (b)：数値が大きいほど難易度が高い (能力が高い)

CORRELATION BISERIAL：総点数との相関係数

・・・マイナスだと高得点者ほど間違えている

・1 問あたり 50 名必要

・問題が重なっていた方が良い (大学間、大学内)

例えば、300 問：A100 問 B100 問 C100 問 D100 問のセットで 300 問にすると

ABC 50 名、BCD 50 名、CDA 50 名・・・問題が重なっていることが必要

(5) vetOSCE 準備委員会：北川先生、山下先生、山岸先生 資料 “OSCE 2014 年度対応事項”

○vetOSCE の準備状況

事前実習の手引き・・・ほぼ完成、共用試験の HP にアップロード

20140419 vetOSCE トライアルの報告 (新井先生から)

・実施した vetOSCE の内容は日獣大独自のものであった

・模範クライアント 13 名 (1 万円+旅費) 受験生 96 名/8 レーンとして (休憩交代要員含む)

・ブース用パーティションレンタルおよび設営 90 万円

・体育館床養生 10 万円

・犬のシミュレーター @ 3 万円×4 レーン

・実技試験ブースでの用具購入および消耗品 30 万円

・模擬クライアント用ネコぬいぐるみとキャリー 1 万円/セット×8 レーン

・初期投資と会場費を除き日獣大規模で 30-50 万円/回程度 (当日弁当代含む) で実施可能か

・スキルラボ設置の必要性から今年度予算確保予定

・標準クライアント、評価担当者の教育と認定の方法について議論が必要

○平成 26 年年度トライアル計画など

・トライアルの実施計画を各大学から情報収集

・犬シミュレーター：京都科学、電通 子牛シミュレーター：電通、富士平 注射シミュレーター犬：京都科学

資料 1-1

第 101 回全国協議会 平成 26 年 9 月 8 日

- ・ シミュレーターに関しては、北大、帯畜大、山口大、鹿児島大の 4 大学に予算のことに
 に関して相談（伊藤先生から）
- ・ 牛シミュレーター：帯畜大は米国から導入、鹿児島大は麻布大シミュレーターを導入
 スキルスラボを考えている
- ・ 模範クライアント・・・機構とアニコムとの契約、認定システム
- ・ 評価項目・・・評価者の研修方法、DVD 作製
- ・ 日獣大プレトリアルで作成した監督要領をベースに各大学で修正版の作成

(6) トリアル実施委員会：遠藤先生、森田先生・高井

○平成 26 年度のトリアル計画（資料 2-1）

- ・ 全国 16 大学に、トリアルに向けての具体的な準備状況について、アンケート調査
 を実施することとした。9 月総会では予定表を発表できるように、7 月末を目処に調
 査をする
- ・ 科目指定してトリアルを実施する・・・履修している学年が受験する
- ・ vetCBT システムの知財（科研費で開発）を機構に移す
- ・ 大阪府立大学では vetCBT の実施環境に Mac を導入・・・調査費は府立大持ち
- ・ 問題目視検査委員の選出
- ・ vetCBT システム練習問題の HP 公開・・・専門性のある問題、幹事会で作成
- ・ 第 157 回日本獣医学会で vetCBT システムの紹介と実演
- ・ 時間あたりの問題数について・・・80 分 100 問×3 ラウンド=300 問とする
- ・ 標準的仕様と推奨購入先を共用試験委員会が指定
- ・ 2013 年度までの開発システムを継続使用する
- ・ 医学・薬学の試験時間設定について、情報収集することとした。
- ・ 薬学の例：基本は 1 問 1 分。2 時間で 100-105 問/1 ブロック。3 ブロックで試験。遅
 刻の限界は開始 30 分迄、1 時間経過したら退出可能。

○第 157 回日本獣医学会（北大）での CBT 担当者会議について

平成 26 年 9 月 12 日（金）北大獣医学部 e-ラーニング室

(7) 広報委員会：澁谷先生

- ・ vetOSCE プレトリアル in 日獣大の HP で紹介
- ・ スпамメールをブロックしている
- ・ 共用試験委員会の会議資料に関して、問題のあると判断されるものは Dr. 澁谷の判断
 で公開していない
- ・ HP 費用：共用試験委員会のもので 30 万円程度、機構も同様の業者で進める
 科研 A で開発費は難しいのでは・・・
- ・ サーバーをどうするか・・・とりあえず umin のまま

(8) 財務小委員会：新井先生・前述（新井委員長に資金調達をお願いし、仮機構事務所立上）

- ・ 会計業務：日獣大 中原さん 全国の事務局

(9) その他問い合わせ：前述（帯畜大、麻布大）

(10) 第 157 回日本獣医学会における司宰機関企画シンポジウムなどについて、伊藤茂男先生
 から準備状況のご説明を頂いた。

追加のお願い（尾崎先生）

(11) 獣医学共用試験マニュアルの作成の依頼

各小委員会が担当される項目について、8 月中旬頃までには、修正・追加をお願いします。

その後、9 月 1 日頃にまでに全委員での校閲、9 月 8 日（？）の全国協議会で配付を目標にし
 たい。同時に、冊子体として全教員に配付できればと考えております。

次回北海道大学での改革委員会会議 9 月 9 日午前 9-12 時 開催予定